

The Journal of Fluoride Problems

フッ素問題ジャーナル

No.39 (2026 年 1 月号)

フッ素情報センター発行

沖縄市照屋 4-8-6-503 清水央雄

～ 目次 ～

お知らせ	p1
トピックス	p2~6
ダイキンの有機フッ素公害 その 11	p7~10
吉備中央町での PFOA 汚染 第 7 回	p11~14
編集後記	p14

お知らせ

2025 年 11 月 3 日、第 45 回フッ素研究会全国集会が開催されました。録画の視聴期間は終了いたしました。

来年も同時期に同じく教育会館での開催を予定していますが、当初は 2026 年 11 月 23 日に開催する方向でしたが、11 月上旬になる見込みです。日程がわかり次第、お知らせいたします。

トピックス

1、11月3日、第45回日本フッ素研究会全国集会在日本教育会館で開催されました。

午前は講演（フッ素洗口の問題点 清水央雄）と各地からの報告（北海道・神戸・徳島・福岡・宮崎・鹿児島・沖縄）と、古賀真子さんの報告がありました。

神戸では、家庭に 900ppm500ml のフッ素洗口液ボトルの配布が始まったことが衝撃的ニュースでした。他の地区にこのような事が広がらないか心配です。

午後は講演（ああ言えばこう言う集 Ver.1 高山みつる）と、質疑応答がありました。

午前も午後も活発な議論が続き、とても有意義な会となりました。

《以下は FAN（ポールコネット代表）からの情報の要約です》

2、州都サンタフェは、コストと健康上の懸念からフッ素添加を終了

ニューメキシコ州サンタフェ市議会は、水道へのフッ素添加を全会一致で中止させることを決定しました。FAN が連邦裁判所で勝利して以来、80 以上の都市が中止しました。

出典

[:https://www.santafenewmexican.com/news/local_news/santa-fe-no-longer-putting-fluoride-into-water-due-to-high-repair-costs-health-risk/article_d6e4a369-0c49-4ba1-b992-a35418b33e24.html](https://www.santafenewmexican.com/news/local_news/santa-fe-no-longer-putting-fluoride-into-water-due-to-high-repair-costs-health-risk/article_d6e4a369-0c49-4ba1-b992-a35418b33e24.html)

3、オーストラリア・クイーンズランド州で水道フッ素添加の中止が続く

ジンピー地域議会在 2025 年 9 月 24 日にフッ素水道添加を中止することを決議し、過去 1 年でクイーンズランド州で 3 番目の都市となりましたが、フッ素添加の支持者たちは、公衆衛生政策に対する熱意の欠如にますます苛立っています。クックシャー議会在 2 月に水道添加を中止することを可決し、ケアンズ議会在 12 月に中止し、バナナシヤイア議会在 2020 年に中止したフッ素添加の再開を拒否する決議をしました。クイーンズランド州内の 77 の地方自治体のうちフッ素添加水をしているのはわずか 16 だけです。

出典

[:https://www.theguardian.com/australia-news/2025/oct/04/something-not-in-the-water-why-are-queensland-councils-voting-to-remove-fluoride](https://www.theguardian.com/australia-news/2025/oct/04/something-not-in-the-water-why-are-queensland-councils-voting-to-remove-fluoride)

4、毒素の腐食性はブルーミントンのフッ素添加の妨げに

インディアナ州ブルーミントン市は、フッ素が水道のタンクに絶え間なく腐食作用を及ぼすため、5 年間フッ素添加していなかったと、市が述べています。ヘラルド・タイムズ紙の 10 月 1 日の報告によると、「水道に添加するフッ素は腐食性液体であるヒドロフルオロケイリン酸で、タンクを侵食しています。[CBU ディレクターのキャット]ザイガー氏によれば、このタンクは 20 年前のもので、2022 年にタンクはエポキシ樹脂で再裏張りされましたが腐食は続いています。「タンクの寿命は近づいています。タンクや配管、バルブの交換となどのコストがかかる」とザイガー氏は 9 月 16 日の保健委員会で述べました。

出典

:<https://www.heraldtimesonline.com/story/news/local/2025/10/01/bloomington-utilities-criticized-for-not-notifying-residents-of-fluoride-fluoridation-issue/86369116007/?gnt-cfr=1&gca-cat=p&gca-uir=false&gca-epi=z112005p001350c001350e009200v112005&gca-ft=28&gca-ds=sophi>

5、慢性的なフッ素曝露はコレステロール値を乱す

飲料水からのフッ素曝露はコレステロールの産生を妨げ、心臓病のリスクを高める可能性があるとして、*Ecotoxicology and Environmental Safety* 誌で報告されました。

ハルビン医科大学等の研究者による最近の調査では、フッ素曝露はコレステロール合成の減少、特に血管内壁の細胞におけるコレステロール合成の低下と関連しており、心臓病のリスクを高める可能性があるとしています。著者らによると、「フッ素はマウス大動脈内の内皮細胞に著しい剥離と病理学的変化をもたらした」とのことです。フッ素入りの水で3か月間育てたマウスでは、コレステロールの合成に必要な2つの重要な酵素の産生を妨げることを発見しました。コレステロールは細胞膜の重要な成分であり、膜により堅固で柔軟な性質を与えます。著者らによると、「過去の研究では、フッ素が人間の頸動脈の内膜肥厚を引き起こすことが示されており、それが内皮細胞損傷を引き起こす可能性を示唆しています。さらに、フッ素は血管内皮細胞のずれ、剥離、機能障害を引き起こすことがわかっています。内皮細胞損傷は心血管疾患の初期段階です」

マウスでフッ素誘発の化学的攪乱（マウス血清中のコレステロール濃度が低下）を確認した後、ヒト集団の疫学的研究を行い、フッ素症患者が血中のコレステロールが減少していることを確認しました。

最近の研究では、低濃度フッ素(1.0 ppm未満でも)に長期的に曝露されることが多系統損傷を引き起こす可能性があることが示唆されています。これらの影響は、従来の歯や骨の問題を超え、免疫系、神経系、内分泌系、生殖発達系などのシステムに及びます。

子ども時代の過剰なフッ素曝露は、神経発達毒性や歯フッ素症など、より重篤な疾患と関連しているという十分な証拠があります。出典:<https://doi.org/10.1016/j.ecoenv.2025.119160>

6、フッ素による認知機能低下、神経細胞の死に起因

中華科技大学の科学者は、ラットと高用量フッ素を用いた毒物学的研究で、フッ素が神経細胞のミトコンドリアの機能を妨げ、タンパク質合成を妨げ、炎症や細胞死を引き起こすことを発見しました。これがフッ素曝露による認知障害の根本だとしています。特に中国のように地下水からの自然フッ素中毒が蔓延する国で、より詳細な細胞・分子研究が認知低下のメカニズムを解明しつつあります。

『*Ecotoxicology and Environmental Safety*』誌の新しい研究の著者たちはこう述べてます。

「我々の以前の生体内研究(生体動物)では、フッ素曝露がラットの海馬ニューロンに病理学的変化を引き起こし、ニッスル体密度の増加や腫れや液化などのミトコンドリア異常を特徴とすることが明らかになりました。これらの構造的変化は神経発達障害や認知機能障害と関連していました」

フッ素がミトコンドリア(食物が化学エネルギーに変換される細胞構造)に対する分子的

影響について詳細なレビューを発表した後、著者らはフッ素がミトコンドリア内のタンパク質合成を妨げ、炎症による細胞死(ピロプトーシス)を引き起こしたことを説明しています。 出典:<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0147651325015325>

6、加水分解乳児用粉ミルクは健康リスクをもたらす可能性がある

スペインでの乳児用粉ミルクの研究では、ほとんどの粉ミルク自体は規制の安全基準を超えるフッ素を含んでいませんが、加水分解された粉ミルク(ペプチドミルク・前消化タンパク質を含むもの)は、子どもに大量のフッ素を曝露させることがわかりました。2025年10月30日に学術誌『Foods』に掲載されたこの報告では次のように説明しています。46種類の粉ミルクのフッ素含有量を分析したところ、3食分の90ミリリットルでも、米国立衛生研究所の1日あたりフッ素濃度(UL)には達していませんでした。しかし、加水分解された一部の粉ミルクは1食分でULに近づき、3回分でそれを上回っていました。

出典:<https://doi.org/10.3390/foods14213728>

6、フッ素が腎臓ミトコンドリアの健康を妨げると判明

妊娠中のフッ素曝露が腎臓の正常な発達と機能を妨げることを発見した研究者たちは、フッ素曝露が腎臓細胞のエネルギー生成小器官であるミトコンドリアのを乱す可能性があることを報告しています。メキシコ国立工科大学、メキシコ国立自治大学、モントリオール大学の研究者たちは、交尾前後に20日間経口フッ素を投与した雌のウィスターラットが、抗酸化機能に必要な酵素活性の低下、ミトコンドリアの肥大、アポトーシス(正常な細胞死)の抑制、ミトコンドリア恒常性の変化があったし、それはフッ素の毒性への細胞の反応であると結論づけました。 出典:<https://doi.org/10.1016/j.tox.2025.154342>

7、フッ素の毒性に関する広範な懸念が明らかに

国際的な大学科学者チームが『Environmental Toxicology』誌に執筆し、フッ素の毒性に関する最も引用されている論文を詳細に分析し、慢性的かつ低濃度のフッ素曝露に対する専門的な毒物学者の間で広く懸念されていることを浮き彫りにしました。

水道フッ素添加が子どもの発達中の脳に害を及ぼす懸念を「陰謀論」として一蹴する一部の論者とは異なり、インディアナ大学等の科学者たちは、こうした低濃度の慢性曝露が神経毒性を持つことを認め、こう記しています。「最適とされるフッ素濃度の曝露であっても、神経発達障害との関連が示唆されています」

著者らは次のように結論づけています。「いくつかの研究で、フッ素が歯および骨格フッ素症に与える影響、さらに脳、甲状腺、消化管、心臓、肝臓、腎臓、特定の細胞タイプへの損傷が報告されています。本研究は過剰なフッ素曝露に関する重大な懸念を浮き彫りにし、特にフッ素による損傷の分子メカニズムの理解における主要な研究動向とギャップを特定しています」 出典:<https://doi.org/10.1002/tox.24600>

8、歯フッ素症や尿中フッ素濃度は腎機能低下と関連している

米国の 1,700 人以上の青少年および若年成人を対象とした研究では、尿中フッ素濃度が増加すると腎機能が著しく低下することが明らかになりました。また、歯フッ素症が腎のろ過率低下と関連していることも発見しました。フロリダ大学の科学者たちは、2015-2016 年の全国健康栄養検査調査(NHANES)の 12~19 歳および 20~29 歳のデータを用いて、尿中のフッ素濃度が高いほど腎のろ過率が低いことと関連していることがわかりました。著者らは「尿中フッ素 (UF) が 1ppm 増加するごとに、思春期の推定糸球体機能率 (eGFR) が約 5 mL/min/1.73 m² 低下したと関連しています。また、UF が高いことは、思春期の血清尿酸 (mg/dl) 上昇とも関連しています」と述べています。

NHANES のデータには歯フッ素症 (DF) の診断も含まれており、歯フッ素症と腎機能の乱れとの関連を検証し、「DF は思春期および成人の eGFR の低下と関連している」と報告しています。

歯フッ素症は全身性フッ素中毒の目に見える症状ですが、歯科医はこれを単なる見た目の問題として片付けています。著者らは「思春期の約 74%、成人の 70% が DF を発症しており、重症度は様々 (軽度から重度まで幅がある)」と記しています。

出典:<https://doi.org/10.1186/s12940-025-01235-x>

9、欧州食品安全庁は、1.5ppm のフッ素制限では不十分

EU は、WHO の飲料水中のフッ素最大濃度である 1.5ppm という基準は、食品や歯科製品からのフッ素曝露を含めることで、不十分な基準であると結論づけました。

欧州食品安全庁 (EFSA) は、出生前および幼少期のフッ素曝露が子どもの発達中の脳に神経毒性の影響を及ぼすという最近の知見を受け、新たなリスク評価の実施をすることになりました。EU の科学委員会は、「歯磨剤等の口腔ケア製品やフッ素強化食品が主要なフッ素供給源であり、評価に含まれていると考えている」としました。成人の場合、飲料水、食品、フッ素添加塩、口腔ケア製品等が組み合わさると、安全な摂取量を超過します。妊婦におけるこのような過剰摂取は、胎児の神経発達への悪影響のリスク増加を示しています。フッ素添加支持者はフッ素の神経毒性を明らかにした最近の研究を「インチキサイエンス」と軽視するが、EFSA は「研究の大多数は、飲料水中のフッ素濃度と子どもの IQ 低下との関連を報告していて、これは信頼できる」と述べています。

10、ドイツの子どものフッ素過剰摂取

ドイツ・ハノーファーのフラウンホーファー毒性学・実験医学研究所の分析によると、すべての供給源からのフッ素摂取量を合計すると、最悪の場合、ヨーロッパの幼児は推奨される量を超え、さらには許容上限を上回ってフッ素を摂取していることが明らかになりました。欧州食品安全庁のガイドラインによると、3 歳未満の子どもは推奨されるフッ素摂取量が 1 日あたり 0.7 mg ですが、実際には最大 2.05mg まで摂取しています。この量は、その年齢層の 1.5 mg/日の許容上限を超えています。フッ素摂取の大部分は、フッ素入り歯磨き粉の摂取によるものとしています。

3歳から6歳の子どもで、最大2.23 mg/日まで摂取している場合、推奨されるフッ素摂取量の1.1 mg/日を超えています。許容される上限である2.5 mg/日は超えていません。多くのヨーロッパ諸国では水道フッ素添加が行われていないため、著者らによると飲料水中のフッ素濃度は一般的に0.3ppmを超えません。 出典:<https://doi.org/10.1002/jat.4865>

11、ロサンゼルス郡でのフッ素添加中止

2025年秋、オンタリオ州オークビルのリバティ・ユーティリティーズ社は、ロサンゼルスなど6つの都市で実施しているフッ素添加の中止を発表しました。サービスエリア全体の人口を合わせると、約40万人の住民がフッ素フリーの飲料水を利用できると推定されています。

UCLAの元教授で、現在フロリダ大学に所属するアシュリー・マリン教授は、2024年にJAMA Network Openにロサンゼルスでの出生前フッ素曝露に関する報告を発表し、この毒素への曝露が子どもの神経行動障害と関連しているとしました。リバティ・ユーティリティーズ社はこれらのフッ素添加を10月24日に終了します。

出典:https://california.libertyutilities.com/uploads/Fluoride%20Letter_Updated_8-8-25.pdf

FANのフッ素添加裁判所判決以降、フッ素添加を終了するコミュニティ

:<https://fluoridealert.org/content/communities-that-have-ended-fluoridation-since-the-fluoride-lawsuit-ruling/>

ダイキンの有機フッ素公害 その 11

前号から引き続き、ダイキンの有機フッ素公害を Tansa が報じているのを要約して紹介します。全文は <https://tansajp.org/investigativejournal/11993/> で、お読み下さい。

【社外秘文書で 25 年前に予測 今続出する間質性肺疾患】

ダイキン工業で PFOA 製造に従事していた労働者の健康被害が明らかになった。ダイキンが質問状への回答を拒否する理由を窺わせる、ダイキンにとって「不都合な事実」が、Tansa が入手したダイキンの社外秘文書の中にあった。ダイキンは、労働者たちの PFOA 曝露被害を 25 年前に予見していたのだ。しかし対策を怠り、健康被害という事態を招いた。

【京都大学に内部文書が届く】

Tansa が入手したのは 2005 年 5 月に京都大学の小泉昭夫氏のもとに届いた、ダイキンのロゴと住所が載った封筒だ。差出人は書かれてなく、小泉氏は文書を保管したままにしていた。時が経ち 2022 年、小泉氏は文書の存在を私に知らせてくれた。「Tansa に託します。調査報道してください」。私は文書の原本を封筒ごと受け取った。

【記されていたダイキンの「不都合な事実」】

封筒には、全部で 17 枚、3 種類の文書が入っていた。

- ・「業務報告書 DS101 に関する調査」
- ・「PFOA に関する Q&A(案) 淀川製作所からの PFOA の環境放出に関して」
- ・『国内河川・湾の PFOA 分布調査と様相』についての見解(案)」

※「DS101」は「PFOA」を示すダイキン内でのコード

この書類には淀川製作所の敷地外への PFOA 排出量が記されていた。その他にも淀川製作所での PFOA 製造工程を記した図や、PFOA 規制について経産省と直接やりとりし、国内規制の動向に関する情報を得ていた記録など、ダイキンしか知り得ずしかも矛盾のない情報だった。こんな記述もある。

「粉を扱う箇所については測定濃度が高く、暴露(曝露)が問題となるであろう」

【文書は本物である】

2022 年 6 月 7 日、ダイキン本社に文書を持参し、対面取材を実施した。3 日後、コピーした文書を精査したダイキンから、「3 つの資料はいずれも 18 年以上前に当社内での検討のために作成された資料ではないかと推定」とメールで返答があった。その一方でダイキンは、以下の理由で文書についてコメントすることを拒んだ。

「当該資料の存在及び記載内容に係る事実関係を確認できませんでした。弊社と致しましては、当社が裏付けを持って公表した公式文書ではなく、作成途上と思しき資料で、記載内容の信憑性も確認できない以上、当該資料に対してコメントすることは適切ではないと

考えます。当該資料へのコメント、記載内容に基づくご質問にはお答え致しかねます」

文書の記載内容はダイキンしか知り得ない情報がある上に、それらの情報に矛盾や間違いがないことも確認できるだろう。それでも文書の真贋を断定せずコメントを拒むのは、文書にはダイキンにとって不都合な事実が記されているからだろう。

【「健康状態を把握」の嘘】

ダイキンは 25 年前には、労働者の PFOA 曝露の問題があることを認識していたのだ。だが、PFOA の毒性や曝露の危険性を労働者に周知せず、労働者たちに作業を命じ、PFOA 製造を続けてきた。Tansa はこれまでの取材で、ダイキンに対して労働者の PFOA 曝露について尋ねてきた。たとえば 2022 年 1 月、「これまでに貴社で働く従業員の PFOA 血中濃度を調べたことがあるか。調べたことがある場合、高濃度の PFOA が検出された従業員がいたか。調べたことがない場合、調べない理由は何か」と問うと、以下の回答だった。「毎年の健康診断の中で過去の PFOA 従事者の健康状態を把握していますが、PFOA に起因する健康影響は認められていません」

【PFOA 作業員「作業後は喉が痛くなります」】

ところが今、研究チームの調査により、曝露から 20 年以上経過後に症状が現れるという間質性肺疾患の患者が複数出ている。発症していなくても、PFOA の高濃度曝露が判明している労働者が複数見つかっている。その内の一人で、PFOA の輸送に使った容器の洗浄業務にあたっていた元労働者は、Tansa の取材にこう述べた。「容器には『ワーニング・ラベル』という危険物質だと知らせるラベルが貼ってあったが、会社側から PFOA について説明されたことはない」「この作業をすると、粉がすごく舞うんです。作業後は喉が痛くなります。PFOA 濃度を調べるような、特別な健康診断を受けたことはありません」

【ダイキン労組は後ろ向き】

今回の研究をリードした金谷邦夫医師は言う。「間質性肺疾患は、アスベストによる中皮腫のように、曝露から 20 年以上経ってから発症する。作業員の健康被害は、5 人、10 人では済まないだろう」会社が責任を果たさない状況下で、誰が労働者の命と健康を守るのか。労働者の頼みの綱は、労働組合だ。2022 年 5 月から 6 月にかけて、私は全ダイキン労働組合連合会と連絡を取っていた。PFOA 作業員の曝露について、社外秘文書の内容を伝えた上で、取材依頼と質問状を送付した。ところが労組の担当者は「取材・回答ともに控えさせていただきます」。

そこから 3 年。労働者の健康被害が明らかになったことを受け、改めて質問状で以下について尋ねた。(一部要約)

- 1、労組は組合員の PFOA 曝露状況・健康被害を把握していたか。
- 2、間質性肺疾患発症者への補償について、労組として経営陣に対して要請を行うか。
- 4、従事した組合員のために、PFOA の毒性や発症リスクを知らせるか。
- 5、従事した組合員に対して、健康調査・PFOA 曝露調査の実施のために行動を起こすか。
- 6、労組としてダイキンの経営陣に対する抗議を行うか。
- 7、労組はさらなる被害を防ぐために行動を起こすか。

8、労組は当方からの取材や質問状送付を通して本問題について認識しているが、組合員への情報共有を実施したか。また、組合員健康被害を防ぐための対策を取ったのか。

ところが、回答期限を過ぎても返答がない。回答催促のメールにも返事がない。電話で問い合わせると、「回答は差し控えます。質問の内容について会社の広報にご確認下さい」なぜ労組として回答しないのか。理由を尋ねると、「それも差し控えさせていただきます」。私が「労働者の健康や命にも関わる問題ですけど、そのことはお分かりですか」と返すと、「いや、もうちょっと、そういうことも含めて(回答を)差し控えさせていただきますので」。その理由については、「理由もありませんので。そこまで言う必要はないと思ってますので」。そして、こう繰り返した。「そういうのも含めて、会社の広報に確認いただければ」会社と労組は別個だ。ところが、「こちらも忙しいので。いつまで続ける気ですかね」と、わずか3分足らずの会話を打ち切ろうとする。なぜこんなに無責任でいられるのか。会社と闘い、労働者の権利を勝ち取るのが労働組合の存在意義だ。労組の存在意義を放棄し、会社と一体化している。

今回の研究チームによる調査で、PFOA の高濃度曝露と間質性肺疾患が認められた労働者の一人は、現役のダイキン職員だ。その労働者は、調査の中でこう漏らした。

「症状を会社に訴えたら、僕、クビになるんかな」

【ダイキンの株主総会で「PFOA 健康被害なし」】

2025年6月27日、ダイキン工業の122期株主総会が、大阪市内のホテルで開かれた。ダイキン淀川製作所を巡っては、2カ月前に健康被害が明らかになったばかり。京都大学の研究者や医師が、PFOA 製造従事者たちの間質性肺疾患を突き止めた。科学論文として公表している。ところがダイキンは、この日の株主総会で断言した。

「当社としましては、PFOA による健康被害が生じているとは認識しておりません」

株主からは汚染への認識や対策に関する質問が挙がったが、ダイキンは「ごまかし回答」に終始した。

【ダイキンは「健康被害は生じていない」】

京都大学の研究者や医師からなる研究チームは2025年4月、労働衛生分野の科学誌『Industrial Health』でダイキン従業員たちの健康被害について報告した。

研究チームが血液検査と健康調査を実施し、ダイキン従業員3人の間質性肺疾患への罹患が判明した。間質性肺疾患は、肺が繊維化して呼吸がしづらくなり、最悪の場合、死に至る。3人とも血中のPFOA濃度が高い。研究チームは「間質性肺疾患は、PFOA曝露から20年、30年経ってから発症する。被害者はまだまだいるだろう」と指摘している。ところが化学事業担当の役員である平賀義之氏は、従業員の健康被害についてこう述べた。

「当社では毎年、定期健康診断を行っており、その際に健康不安や心配事があれば、都度会社や産業医に相談するように伝えていました。これまで健康影響についての申し出はなく、当社としては、PFOA による健康被害が生じているとは認識しておりません」

株主総会では、『Industrial Health』に掲載された論文については触れなかったが、Tansaがダイキンに質問状を送った際は、こう回答している。

「弊社は、当該論文の作成に携わっておらず、その分析方法や精度などの詳細を把握していないため、一連のご質問へのコメントは差し控させていただきます」

【杜撰な岡山・吉備中央町の「岡大教授報告」を引用】

その一方でダイキンは、自社が作成に携わっていない研究を、株主総会で引用した。水道水に高濃度 PFOA が混入した岡山県吉備中央町の住民を対象とした血液検査結果だ。2025 年 5 月、岡山大学の頼藤教授が分析結果の中間報告会述べた。

「PFOA が混入した水道水を飲んでいて人と飲んでいなかった人とでは、差はなかった」だが、その発表内容には複数の問題点があった。例えば、3 年間で日常的に PFOA 混入水を飲んでいて人と、1 度でも PFOA 混入水を飲んだ経験のある人を同群で捉えていた。PFOA の健康影響の一つである精巣がんの発症率については、女性のデータを分母に含めていた。それにもかかわらず、ダイキンは株主の前でこう述べた。

「岡山県吉備中央町は先ごろ、岡山大学の協力を得て、町民に対して実施した血液検査と、健康影響調査の中間報告をし、PFOA は、『明らかに関連する指標は認められない』との見解を示したことを、当社でも一部報道を通じて確認しております」
なぜ、査読の上、論文掲載された間質性肺疾患の研究結果は採用せず、杜撰な岡山大学の「中間報告」は利用するのか。

【遮水壁設置後、PFOA 濃度が国指針 600 倍に上昇】

PFOA 対策の 2 つ目は、遮水壁の設置だ。竹中社長が説明する。

「更なる対策として、2023 年に遮水壁の建設工事に着工いたしました」

しかし、実は遮水壁の効果がみられていないのだ。遮水壁が設置された地点から数メートルにある敷地外の井戸では、理由は不明だが、PFOA 濃度が逆に上昇している。遮水壁設置前の 2022 年 8 月時点では、濃度は 21,000ng/L だった。ところが遮水壁設置後の 2024 年 8 月、濃度は 30,000ng/L に上昇した。国が定める指針値の 600 倍にあたる。

【自治会長しか参加できない住民説明会】

竹中社長のごまかしは続く。

「地域の方々への説明会の開催や、近隣住民の方との対話の場を設けてまいりました」

しかしその説明会に参加できるのは、淀川製作所の周辺地域の自治会長のみなのだ。会場には、実情を知る地域住民の株主が参加しており、こう指摘した。

「地域住民は、『これは住民説明会ではない』とはっきりと断言しております」

【国連、ダイキンによる汚染者負担を強調】

日本では、PFOA をはじめ、PFAS への規制が欧米諸国に比べて追いついていない。ザルのような規制のもと、PFAS 製造を続けるのは危険だ。2023 年夏に国連の「ビジネスと人権」作業部会が来日。ダイキンによる PFOA 汚染を調査した結果、こう報告している。「私たちとしては、UNGP(ビジネスと人権に関する指導原則)と汚染者負担の原則に従い、この問題に取り組む責任が事業者にあることを強調したいと思います」

～ つづく ～

吉備中央町での PFOA 汚染 第 7 回

前回に引き続き、岡山県吉備中央町の有機フッ素汚染を報じている Tansa の記事を要約して紹介します。全文は <https://tansajp.org/investigativejournal/12438/> で、お読み下さい。

【ダイキンがミスリード報道を利用】

岡山県吉備中央町の住民が 8 月 18 日、PFOA 製造企業「ダイキン工業」の竹中直文社長宛てに質問状を送付した。理由は、2 カ月前に開かれたダイキン株主総会にある。吉備中央町で実施中の PFOA 健康調査について、役員の平賀義之氏がこう説明したからだ。「健康影響の関連調査の中間報告を実施し、PFOA では、『明らかに関連する指標は認められない』との見解を示したことを、当社でも一部報道を通じて確認しております」ダイキンは吉備中央町での中間報告に便乗し、公害企業としての責任を軽減する構図だ。住民は驚いた。データ分析が杜撰な上に、調査もまだ途中だ。住民の PFOA 曝露と健康影響の関連性がないとは言えない。ミスリードである。なぜこのような不正確な情報がダイキンに利用されてしまったのか。行政と科学者が、住民を置き去りにしたまま情報を発信する。マスコミはその情報を鵜呑みにして報じたまま、知らん顔。いずれも本来は住民の側に立ち、企業の公害を止める役割があるにもかかわらず、機能不全に陥っている。

【8割超が米政府の指針値超え】

吉備中央町の水道水汚染は、2023 年 10 月に明らかになった。住民は、国が定める飲用水の PFOA 指針値の 28 倍の水を、日常的に摂取していた。期間は少なくとも 3 年間。血液検査を受けた住民 700 人超の 87%が、米国政府が採用する指針で「処置が必要」とされる値を超えていた。岡山大学の頼藤貴志教授が、PFOA 曝露と健康影響の関連について分析調査を続けている。町からの委託だ。

【岡山大学調査の杜撰さ】

問題が露呈したのは、2025 年 5 月 18 日に町が実施した住民説明会だ。山本雅則町長が挨拶に立ち、頼藤教授が調査の中間報告を行った。PFOA が混入した水道水を飲んでいただけ人と、飲んでいなかった人との間で、「明らかな差は観察されなかった」という。問診票の内容を比較した結果だ。だが、説明には引っ掛かかる点が複数あった。たとえば 3 年間のうち、日常的に PFOA 混入水を飲んでいただけ人と、1 度でも PFOA 混入水を飲んだ経験のある人を同群で捉えていた。精巣がんの発症率については、女性のデータを分母に含めていた。そもそも、町民 1 万人強のうち、まだ約 700 人しか血液検査に参加していない。疫学調査の結果を出すには十分とは言えない段階のはずだ。

質疑応答時は、報道機関は入れなかった。説明会が終わった後に記者会見が開かれた。杜撰なデータをもとにした報告であることを踏まえ、私は質問した。

「こういうデータを出すと、『健康被害が出ていない』というふうに視聴者・読者をミスリードしてしまいますよね」

しかし頼藤教授は「今日は暫定結果をお伝えさせていただいたというところで、これで何かこう結論するというものではないと思います」

住民との質疑応答では、私と同じ疑問をぶつける人はいなかったのか。取材すると、いた。住民たちでつくる「円城浄水場 PFAS 問題有志の会」のメンバー、吉田全作さんだ。飲水者と非飲水者の線引きの問題点や、血液検査の数値ではなく問診票の内容のみで集計している点などを突き、「数字のマジックです」と指摘した。吉田さんは、この日の内容がどのように報道されるかについても、心配していた。

「マスコミへの会見時に、間違っただけを言わないでください」「マスコミはそのまま書きますから。国や原因企業は、それを待ってるんですから。血液濃度がどんなに濃くても全然関係ないよって言いたいわけですから。そういう材料を与えないでください。お願いします」「さんざん言うようですが、マスコミの方たちにはそこを誤解しないように、ちゃんと報告してほしいと思います。お願いします」

吉田さんがここまで念を押したにもかかわらず、記者会見で頼藤教授は同じ説明をした。

【マスコミへの住民の不安が的中】「

杜撰な岡大調査の内容をマスコミがそのまま書く」という住民の心配は、的中する。報道各社が、町側の説明のままに報じた。

この日以降、有志の会代表の小倉博司さんは近隣住民から「健康影響はないらしいね」と声をかけられるようになった。報道が影響していることを痛感した。

【大阪からの連絡】

マスコミ各社の報道の翌月、6月末には大阪での PFOA 汚染対応に取り組む住民団体から連絡が入った。

「ダイキンの株主総会で、吉備中央町の血液検査で『健康影響は見られなかった』と説明されてましたよ」

驚いた有志の会メンバーは、株主総会でのダイキンの発言を調べた。6月27日実施の株主総会で、PFOA の健康影響に関する株主からの質問に対し、化学事業担当役員の平賀義之氏がこう述べていた。

「岡山県吉備中央町は先ごろ、岡山大学の協力を得て、町民に対して実施しました血液検査と、健康影響の関連調査の中間報告を実施し、PFOA では、『明らかに関連する指標は認められない』との見解を示したことを、当社でも一部報道を通じて確認しております」このままマスコミの報道が事実として定着し、ダイキンに利用されては困る。

有志の会は、山本町長と頼藤教授に対して、記者会見を実施して住民説明会の内容の補足や訂正をするよう求めた。しかし応じようとしなかった。

7月23日には、頼藤教授に直談判した。頼藤教授は「自分が出した情報の一人歩きは本意ではない」と述べたものの、「会見実施は私の役割ではないので、町に聞いてください」と言ったという。ダイキンに対する発言の訂正も求めようとしなかった。

ただ7月30日、有志の会の小倉さんが、山本町長と個人的に会った時のことだ。町長は「町のホームページに、中間報告に関するコメントを掲載する」と述べた。

しかし、いくら待っても、町のホームページが一向に更新されない。有志の会は、自ら記者会見を開くことを決めた。

【記者は勉強不足】

8月18日、岡山県庁記者室に、小倉さんと吉田さんがやってきた。報道陣に対して、吉田さんは苦言を呈した。

「はっきり言うと、記者の方たちも勉強不足だと思うんですね」「僕らの血液検査の濃度がこんなに高かったというのは、本当にご存知ですか。世界的にすごい数値なんです」「これは公害問題、大変なことなんです。それを、もうちょっと勉強していただきたい。それだけ危機感を持っておられるのかは分かりませんが、勉強した上で、質問なり調査を」「僕らの意図しないところで(データが)利用されるのは、被害者として非常に悔しい」

小倉さんも「これは命に関わる問題です」と述べ、こう訴えた。

「吉備中央の被害住民が孤立して、何事もなかったかのように消されてほしくない。報道各社には、報道による被害者の心情を想像していただきたい」

小倉さんと吉田さんは、有志の会として、町と頼藤教授に対して調査方法の改善を求めていることも明かした。

【ダイキンへの7つの質問】

ダイキンに対しては、次の7項目の質問を、有志の会として送付した。

1. 「PFOAでは、明らかに関連する指標は認められないとの見解を示した」とある総会での発言は事実でしょうか。議事録を確認の上正確にお知らせ下さい。
2. 事実であるなら発言者の氏名・役職を明らかにされたい。
3. 「PFOAでは、明らかに関連する指標は認められないとの見解を示した」との情報は、どこで得られた情報なのか明らかにされたい。報道機関の情報で得られたものなら、報道機関の社名を明らかにされたい。
4. 調査を行っている岡山大学へ詳細を確認した上での発言なのか明らかにされたい。
5. 吉備中央町の実情をどこまで認識された報告なのか明らかにされたい。
6. 株主総会での発言ということでは、会社としての公式の見解と受け取ってよろしいか。
7. 貴社はこれまで、PFOAを開発・製造していたと聞いていますが間違いありませんか。

【住民からの指摘をスルーするマスコミ】

有志の会による記者会見の翌日、ようやく吉備中央町のホームページに、「令和7年5月18日開催の住民説明会に関する補足について」が掲載された。しかし、自分たちが説明した内容の何が問題だったかが書かれていない。報道各社やダイキンが発信する内容の間違いの指摘もない。説明会で使用した、誤解を招く資料も掲載したままだ。

5月18日に実施した住民説明会の報告について、今回の結果は、あくまでも現時点まで解析した内容に関するものであり、今後のあらたな解析の結果を何ら拘束するものではありません。

また、町としては、さらなる解析の継続や関連の評価、長期的な健康観察が必要であると考えており、今回の報告は『健康への影響はないと断定したものではない』と理解しております。町としても、「健康への影響」については

今後も継続し調査していくこととしています。

有志の会が記者会見を開いたことを受けて焦って出した、アリバイのような文章である。報道機関はどうか。記者会見に関する報道を調べたが、住民が正しい情報を求めたことを報じるのみで、住民説明会の報道に対する訂正は出していない。今回の記者会見について報じていない社もあった。

行政もマスコミも、自分たちのミスリードで住民を苦しめている自覚がないということだ。

～ つづく ～

編集後記

今回はダイキンの記事が少し長くなりました。すでに有害性の高い PFOA と PFOS は製造が禁止され、ダイキンは製造していませんが、しかし PFAS は 1 万種以上あり、ダイキンは PFOA と PFOS 以外の PFAS の製造をしています。どの種の PFAS は、どれくらい毒性があるのか、よくわかっていないため、今後もダイキンの工場からの汚染は止まらないと思います。千歳ではラピダス、熊本では TSMC の第二工場の建設が進んでいますが、これらの半導体工場での PFAS の使用量は膨大で、それに供給する PFAS の製造量は、ますます増えるため、さらに PFAS 汚染は増えていくのではないのでしょうか。

私事ですが、昨年 10 月末に北海道から沖縄へ移住しました。パートではありますが、沖縄で仕事をしているため、なにかと忙しい毎日で、今号の発行が遅くなって大変申し訳ありません。次号も遅くなるのが予想されるので、今までのような定期発行（2・5・8・11 月）ではなく、不定期の発行とさせていただきたいと思います。

ちなみに、沖縄へ来て 2 か月ちょっとたちましたが仕事が忙しくてまだほとんど観光はしていないし、遠出もほとんどしていません。一番遠くへ行ったのは、30 km 離れた伊計島（橋で本島と繋がっています）で、職場の同僚の両親がやっている畑に行きました。雑草取りや大根の間引きを手伝いましたが、とても楽しかったです。

初めての沖縄でのお正月ですが、県外とは様相が大きく違い、驚きました。沖縄の人はお雑煮を食べないのです。焼き餅も食べないそうです。スーパーでは大福などの甘いお餅は普段よりも並んでいました。沖縄の気候ではお餅にカビが生えやすいことが関係しているのでしょうか。でも、今では佐藤の切り餅などの個包装があるから大丈夫なんですけどね。あと、おせちというものがありません。それに似た簡単なお重ならありますが、黒豆や数の子はスーパーにありませんでした。沖縄では旧正月も祝うため、新正月は比較的質素のようです。でも、大晦日のスーパーにはお刺身や握り寿司は沢山並んでいました。なお、意外と沖縄のお魚は美味しく、楽しい食生活を送っています。

1 月下旬に鹿児島県（鹿屋と出水）でフッ素の講演をする予定です。